

パナマ・スエズ両運河の利用増加 — 運河通航船実態調査結果 —

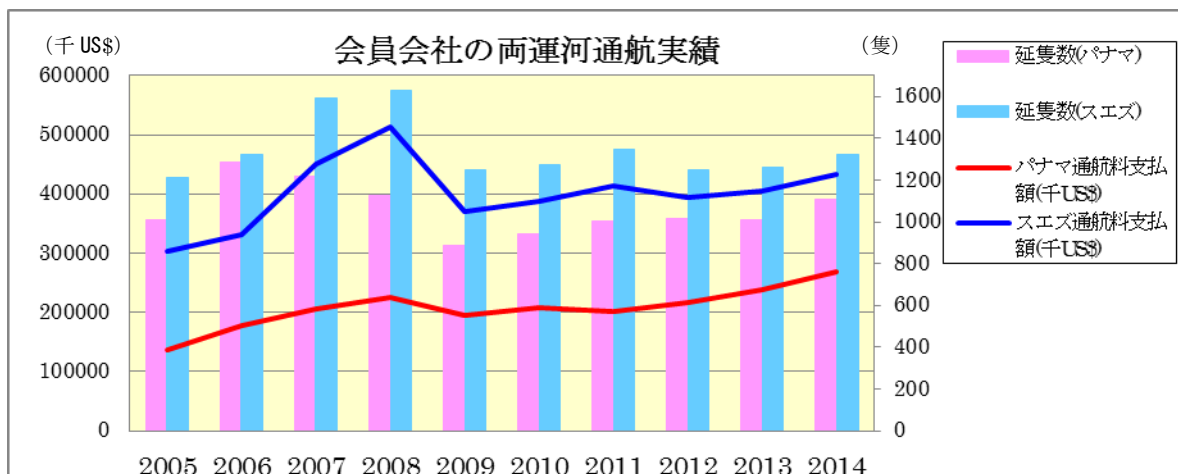
当協会は、毎年会員各社の運航船舶（外国用船を含む）について、パナマ・スエズ両運河に係る通航実績調査を実施しており、今般その結果がまとまった。

調査対象期間は、パナマ運河については2014年4月1日より2015年3月31日、スエズ運河については2014年1月1日より同年12月31日までとした(統計の連続性上)。

なお、通航料については用船契約によって用船者等が支払う場合があることから、運河トン数や通航料が不明の例があったため、表中の実績は、調査回答船社が確認できる範囲で集計したものである。

調査の結果、当協会会員会社の運河通航料支払額は、パナマ運河は通航隻数・トン数の増加により前年比約12.9%増（米ドルベース）、スエズ運河は通航隻数・トン数の増加に加え、2014年5月1日実施の一部船種に対する通航料の引き上げもあり同約7%増（米ドルベース）となった。

概要は以下のとおりである。



注)通航料不明や概算等があるため、グラフ中の隻数と通航料総額は対応していない

<パナマ運河>

a. 通航実績

パナマ運河の利用状況は、**通航船社数**が前年度比較で1社増の17社となり、利用隻数(延べ)については95隻増(2014年:1106隻/2013年:1011隻)となった。**G/Tベース・D/Wベース**ではそれぞれ48,856千G/T(2013年:44,727千G/T)、44,540千D/W(2013年:40,934千D/W)となった。

b. 通航料支払実績(確認分)

コンテナ船以外の料率の基本となる**通航船舶トン数**(PC/UMS : Panama Canal/ Universal Measurement System※1) ベースでは 30,038 千トンとなり、コンテナ船のベースとなる **TEU** は 1,301 千 TEU となった。この結果、全体の**通航料**は前年(237,844 千米ドル、**概算値含む**)比から約 12.9%増の 268,615 千米ドルという大幅な増加となった。

a. パナマ運河通航実績推移

年度	社数	延隻数	延千G/T	延千D/W
2005	17	1,011	42,158	35,998
2006	18	1,284	55,484	42,608
2007	18	1,216	52,405	43,064
2008	19	1,129	48,952	45,087
2009	17	887	40,632	38,385
2010	17	940	40,263	36,866
2011	15	1,003	42,317	41,056
2012	18	1,016	43,368	41,084
2013	16	1,011	44,727	40,934
2014	17	1,106	48,856	44,540

b. パナマ運河通航料支払実績(確認分)推移

年度	延隻数	延千 PC/UMS	延千 TEU	通航料	
				千 USドル	億円(参考)
2005	1,011	40,083	-	136,981	155
2006	1,284	51,111	-	178,590	209
2007	1,211	34,692	1,127	204,925	227
2008	1,100	28,442	1,123	224,246	225
2009	887	29,234	1,170	195,781	181
2010	940	27,154	1,019	207,716	177
2011	878	26,570	921	202,102	160
2012	871	27,359	965	216,335	180
2013	945	27,150	1,001	237,844	239
2014	1,088	30,038	1,301	268,615	297

注 1) 上記表 b. の「延隻数」は、支払通航料の確認ができた隻数であるため、表 a. 記載の「延隻数」とは数値が異なる。

注 2) 2014 年の通航料の円換算率は、2014 年 4 月～2015 年 3 月の平均レート(銀行間直物相場)1ドル=110.69 円を採った。

注 3) 2005 年 5 月より、コンテナ船に対する通航料は、TEU 当たりの料金とする課徴方式に変更となったため、2007 年度調査から延 PC/UMS にはコンテナ船の分を含まないこととした。

注 4) 通航料については概算値含む。不明運河トンについては 0 とカウントし、延隻数・通航料も除外。

c. 船種別内訳（2014. 4. 1～2015. 3. 31）

船種別延隻数では、自動車専用船がもっとも多く380隻→401隻に（約5.5%増）、増加数ではコンテナ船がもっとも多く215隻→291隻と増加（約35%増）、PC/UMSベースでもそれぞれ21,040千トン→21,145千トン（約0.5%増）、1,001千TEU→1,301千TEU（約30%増）と上昇した。それに伴い、通航料も自動車専用船が前年度比5.8%の増加（2014年：106,038千米ドル/2013年：100,239千米ドル）、コンテナ船が前年度比25.4%の増加（2014年：118,343千米ドル/2013年：94,367千米ドル）となった。概算値や不明運河トン等数値の加除につき単純比較は難しいが、昨年に比べ大きく上昇している。

c-1. 船種別通航実績内訳

船種	社数	延隻数	延千G/T	延千D/W
タンカー	1	1	28	50
ケミカルタンカー	4	57	988	1,616
L P G 船	0	0	0	0
バルクキャリアー	9	323	9,779	17,111
自動車専用船/RORO船	4	401	22,391	7,198
コンテナ船	3	291	15,086	17,764
一般貨物船	2	29	502	770
旅客船	1	1	50	0
その他船舶	1	3	32	31
合計	17	1,106	48,856	44,540

注）社数合計の17は、調査期間中にパナマ運河を通航した会員船社数であり、船種別の社数の合計とは一致しない。

c-2. 船種別通航料支払実績（確認分）内訳

（通航料=千USドル）

船種	延隻数	延千PC/UMS	延千TEU	通航料
タンカー	1	24	-	115
ケミカルタンカー	57	915	-	5,235
L P G 船	0	0	-	0
バルクキャリアー	308	7,572	-	35,951
自動車専用船/RORO船	401	21,145	-	106,038
コンテナ船	291	-	1,301	118,343
一般貨物船	29	341	-	2,713
旅客船	1	41	-	220
その他船舶	0	0	-	0
合計	1,088	30,038	1,301	268,615

注 1) 上記表 c-2 の「延隻数」は、支払通航料の確認ができた隻数であるため、表 c-1 記載の「延隻数」とは数値が異なる。

注 2) 通航料については概算値含む。不明運河トンについては0とカウントし、延隻数・通航料も除外。

なおパナマ運河全体では、同運河庁発表の2014年度実績によると前年度に比べて通航船舶は減（前年度比1.3%減）、通航船舶トン数PC/UMSは前年度比1.9%増となった。また、通航収入についても前年

度比 3.3%増の 1,910.2 百万ドルだった。

<スエズ運河>

d. 通航実績

スエズ運河の利用状況は、**通航船社数**は前年比 3 社増の 13 社となり、利用隻数(延べ)は 1,320 隻(2013 年：1,261 隻)と増加、**G/T ベース**でも 89,047 千 G/T、**D/W ベース**は 75,644 千 D/W と、ともに前年より上昇した。

e. 通航料支払実績(確認分)

料率の基本となる**スエズ運河トン数**(SCNT：SUEZ Canal Net Tonnage※2) ベースでは、71,667 千トンとなり、この結果、全体の**通航料**は前年(2013 年：404,178 千米ドル) 比約 7.1%増の 432,862 千米ドルとなった。

d.スエズ運河通航実績推移

年度	社数	延隻数	延千G/T	延千D/W
2005	14	1,209	61,014	56,543
2006	16	1,322	61,426	52,359
2007	21	1,595	85,595	77,905
2008	22	1,626	91,830	81,048
2009	13	1,248	74,905	64,440
2010	11	1,272	76,517	61,239
2011	9	1,349	87,782	73,878
2012	12	1,246	82,951	69,176
2013	10	1,261	82,520	69,123
2014	13	1,320	89,047	75,644

e.スエズ運河通航料支払実績(確認分) 推移

年度	延隻数	延千 SCNT	通航料	
			千 USドル	億円(参考)
2005	1,209	58,233	303,102	334
2006	1,322	57,929	330,653	385
2007	1,574	81,839	449,637	530
2008	1,620	90,906	514,002	532
2009	1,149	61,552	370,759	342
2010	1,174	64,831	386,848	338
2011	1,199	66,206	414,365	330
2012	1,101	61,962	395,163	316

2013	1,092	64,006	404,178	395
2014	1,147	71,667	432,862	461

注 1) 上記表 e. の「延隻数」は、支払通航料の確認ができた隻数であるため、表 d. 記載の「延隻数」とは数値が異なる。

注 2) 2014 年の通航料の円換算率は、2014 年 1 月～12 月の平均レート(銀行間直物相場)1ドル=106.69 円を採った。

注 3) 通航料不明分については 0 とカウントし、延隻数・運河トンも除外。

f. 船種別内訳 (2014. 1. 1～2014. 12. 31)

船種別でみると、延隻数では、**コンテナ船**が 520 隻→529 隻と約 1.7%微増、自動車専用船は 348 隻→378 隻で約 8.6%増加となった。SCNT ベースでは、それぞれ 40,183 千トン→45,275 千トン、20,133 千トン→21,237 千トンと増加した。その結果、通航料も**コンテナ船**が 6.1%の増(2014 年:275,157 千米ドル/2013 年:259,221 千米ドル)、**自動車専用船**が約 6.3%増(2014 年:121,280 千米ドル/2013 年:114,008 千米ドル)となった。

f-1. 船種別通航実績内訳

船 種	社 数	延隻数	延千G/T	延千D/W
タンカー	2	16	935	1,450
ケミカルタンカー	5	190	2,991	5,051
LPG 船	2	6	230	265
LNG 船	2	86	9,673	7,254
バルクキャリアー	5	22	795	1,426
自動車専用船/RORO 船	5	384	21,815	7,215
コンテナ船	3	529	51,588	51,839
一般貨物船	2	23	331	474
旅客船	0	0	0	0
その他船舶	1	64	689	670
合 計	13	1,320	89,047	75,644

注) 社数合計の 13 は、調査期間中にスエズ運河を通航した会員船社数の合計であり、船種別の社数の合計とは一致しない。

f-2. 船種別通航料支払実績 (確認分) 内訳

(通航料=千 USドル)

船 種	延隻数	延千 SCNT	通航料
タンカー	12	896	1,506
ケミカルタンカー	179	2,607	26,114
LPG 船	6	213	1,455
LNG 船	0	0	0
バルクキャリアー	20	728	4,422
自動車専用船/RORO 船	378	21,237	121,280
コンテナ船	529	45,698	275,157
一般貨物船	23	288	2,928
旅客船	0	0	0

その他船舶	0	0	0
合 計	1,147	71,667	432,862

注 1) 上記表 f-2. の「延隻数」は、支払通航料の確認ができた隻数であるため、表 f-1. 記載の「延隻数」とは数値が異なる。

注 2) 通航料不明分については 0 とカウントし、延隻数・運河トンも除外。

なおスエズ運河全体では、同運河庁発表の 2014 年実績によると隻数・運河トンともに増加(前年度比 3.3%増・5.2%増)、当局によればタンカー、バルクキャリアー、コンテナ船、Ro-Ro 船のトン数の増加によるものと見られている。

※1 PC/UMS(The Panama Canal/Universal Measurement System) :

1969 年の船舶のトン数の測度に関する国際条約をベースに算出されたパナマ運河庁が 1994 年より採用している船舶容積の測定方法。

※2 SCNT(SUEZ Canal Net Tonnage) :

純トン数規則をもとに、スエズ運河当局独自の控除基準を加えて算出する。二重底船の船底にバンカー油を積載した場合その部分の控除を認めない等、パナマ運河や各国の規則とも異なる独特のもの。